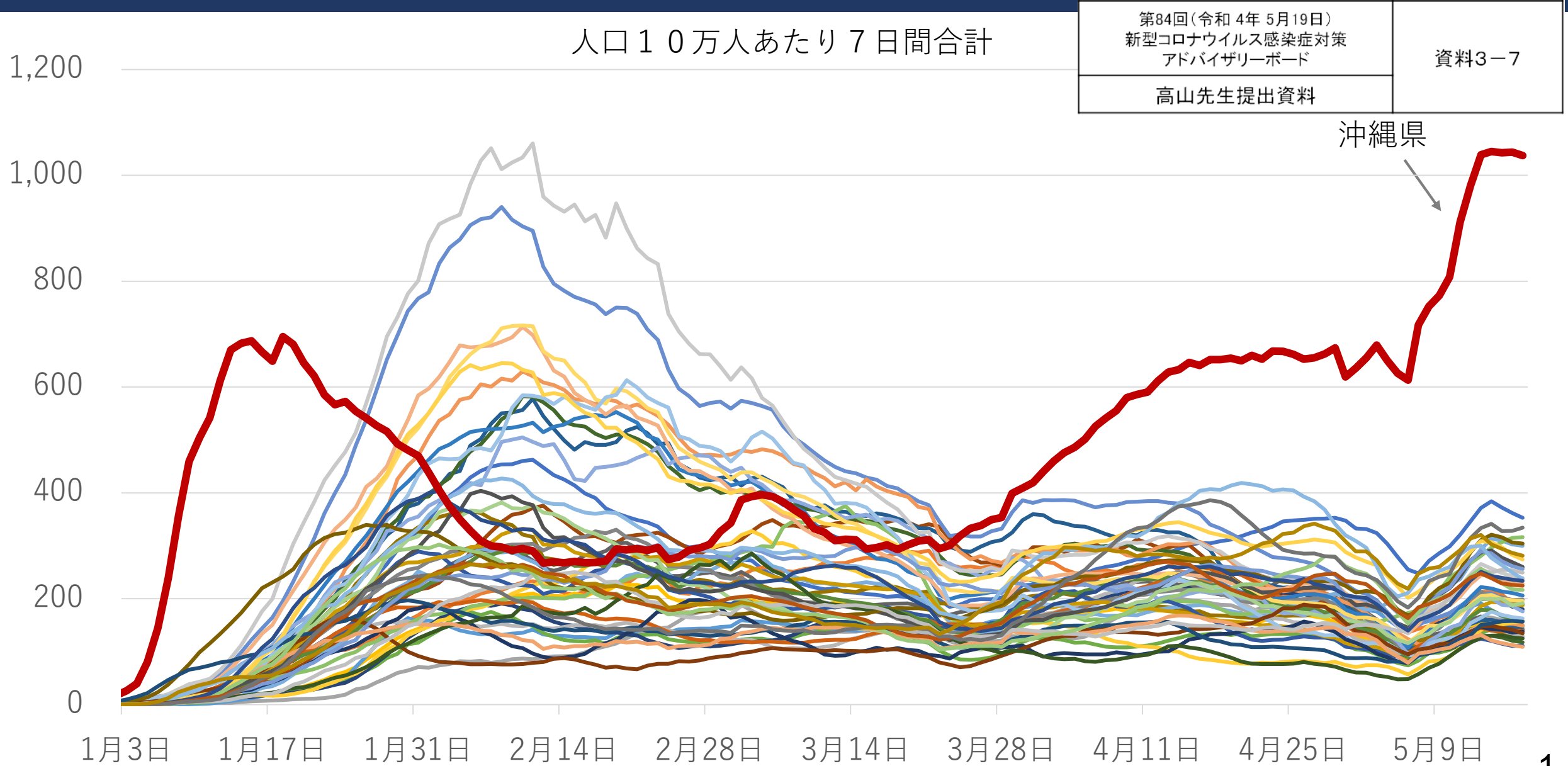


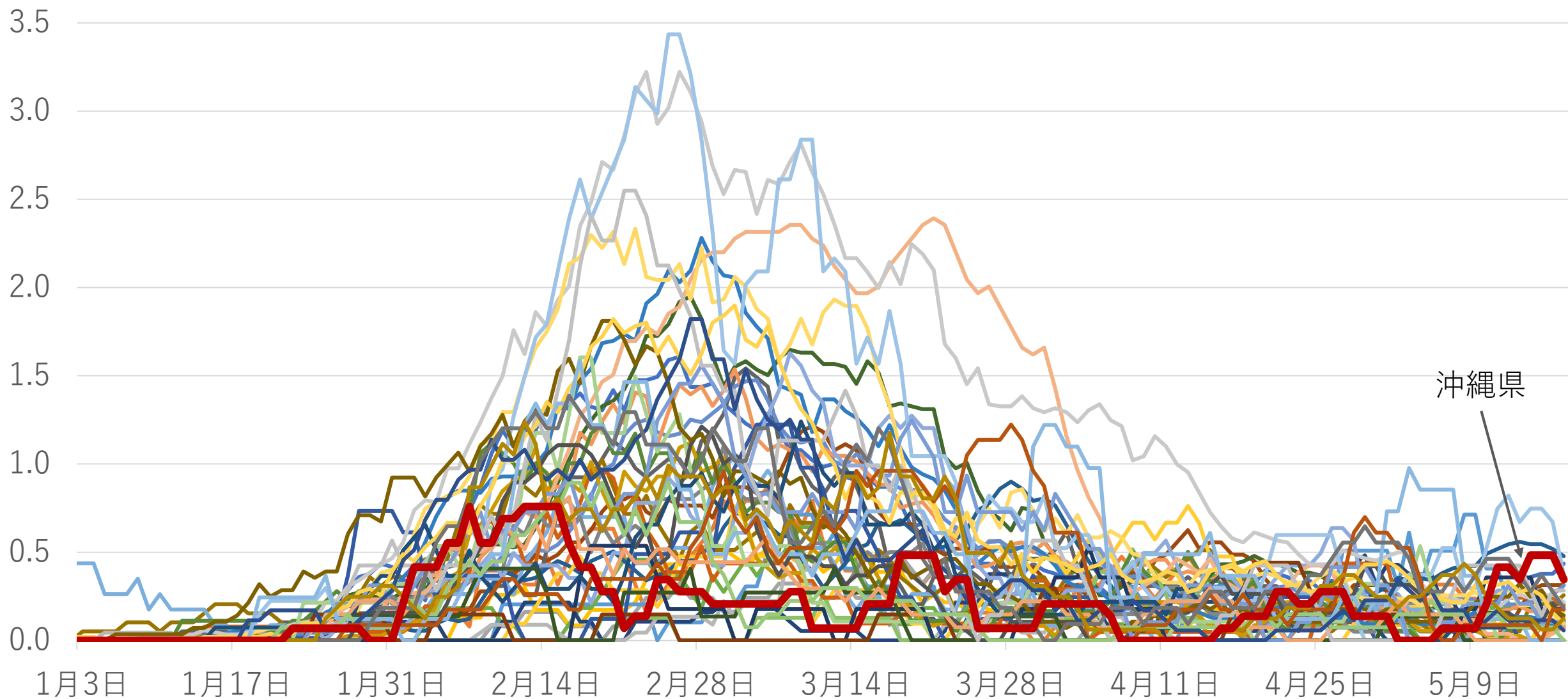
# 図1 都道府県別にみる新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)



出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」掲載の都道府県ごとの陽性者数をもとに作図

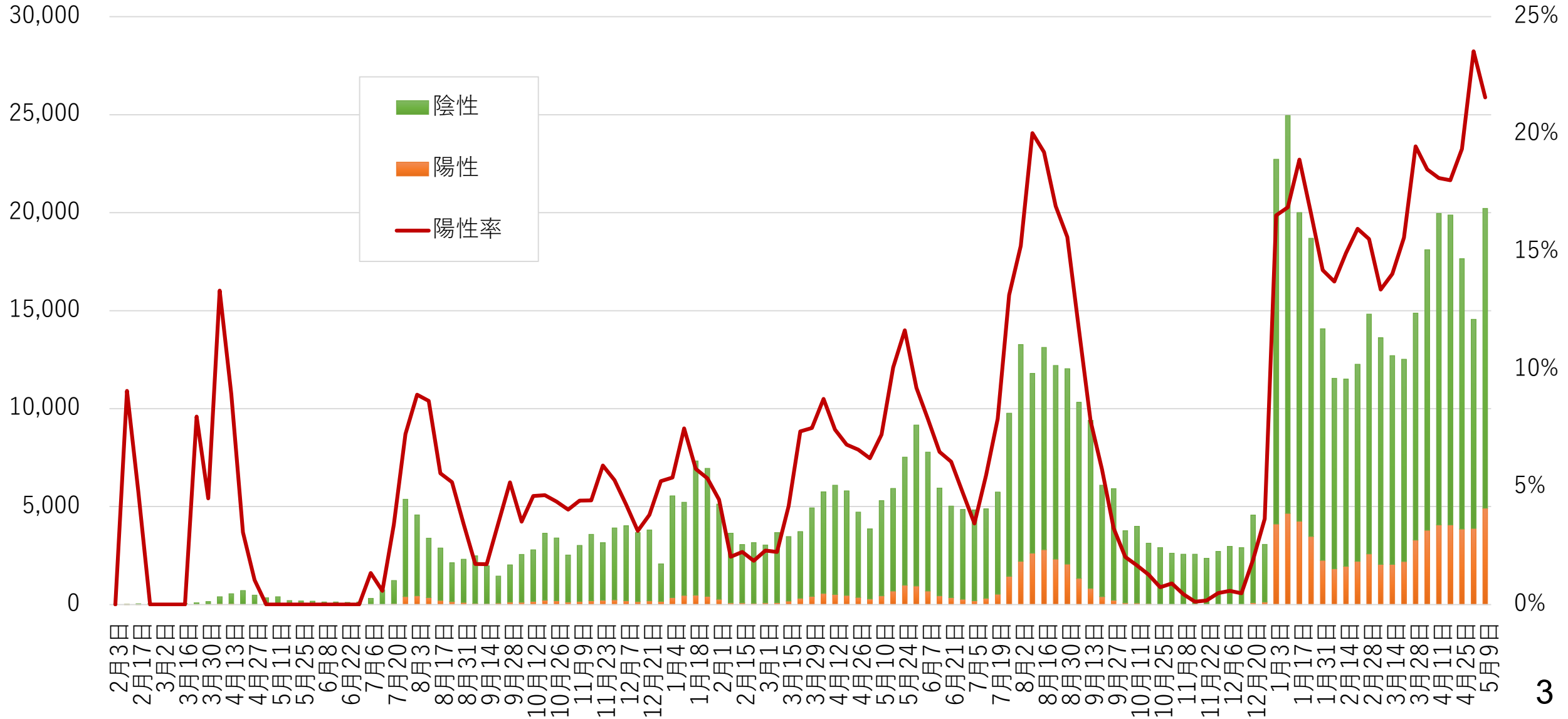
# 図2 都道府県別にみる死亡者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

人口10万人あたり7日間合計



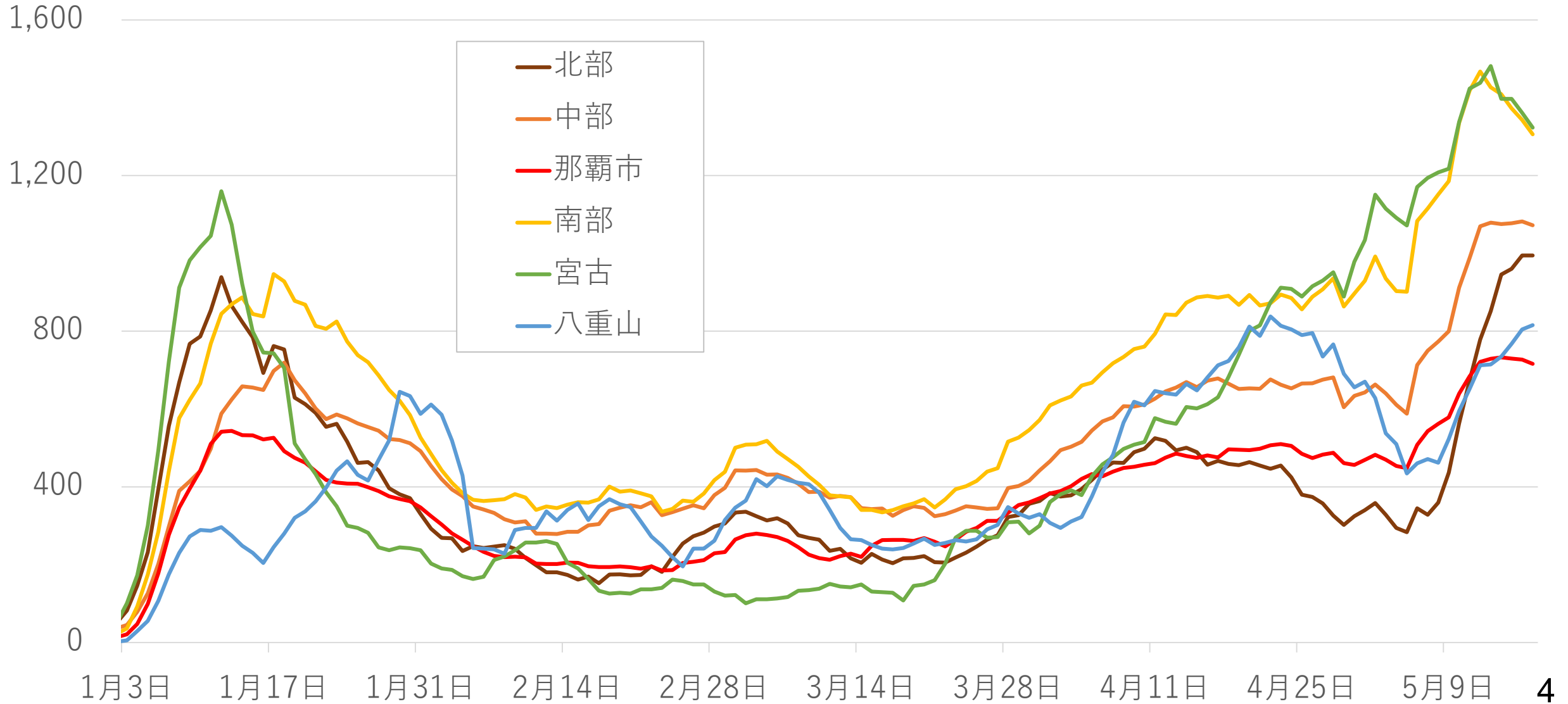
# 図3 検査実施件数と陽性率 (沖縄県)

陰性確認等を除く

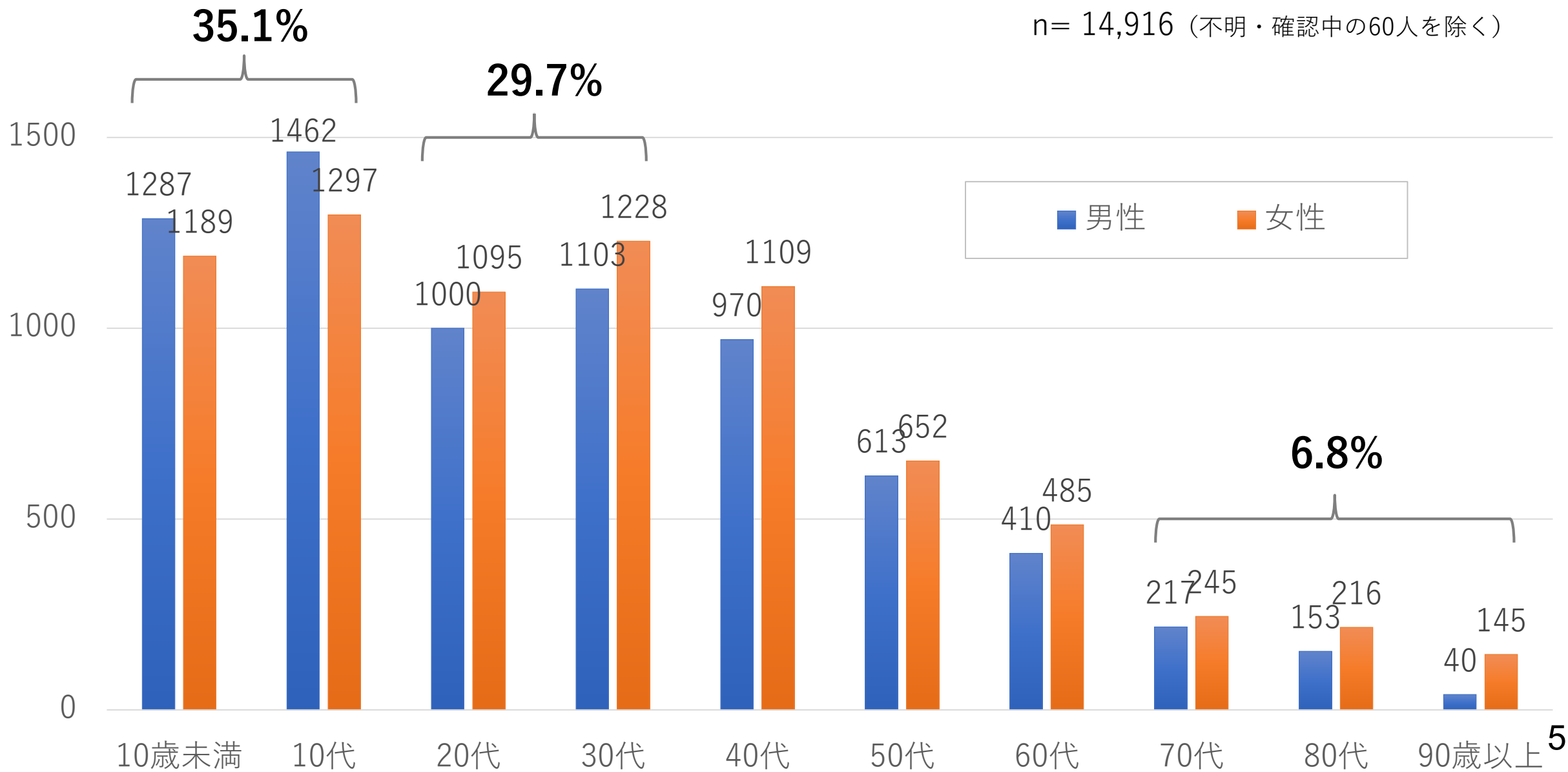


# 図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

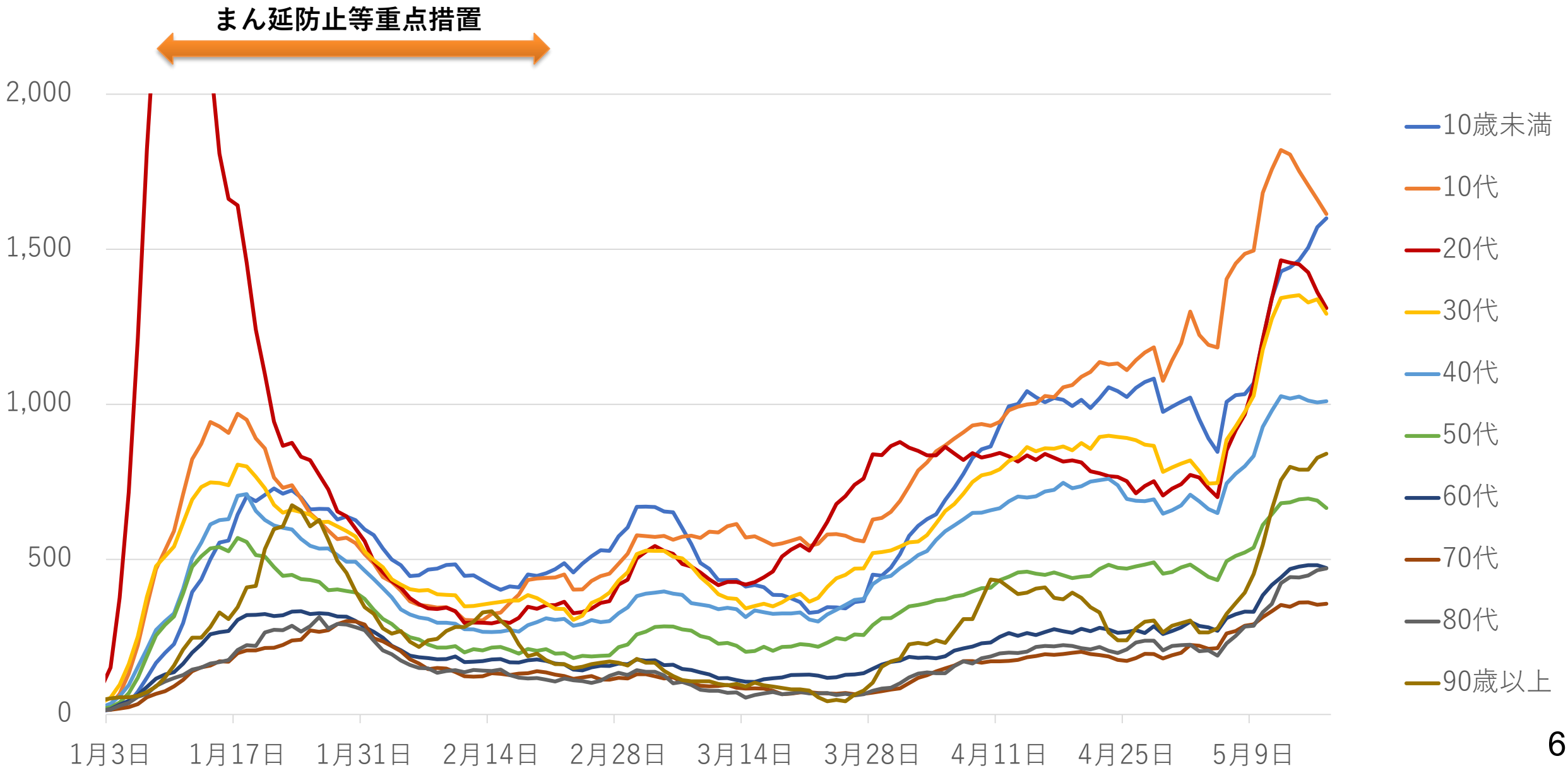
人口10万人あたり7日間合計



# 図5 性年齢階級別に見る陽性者数 (5月9日~15日)

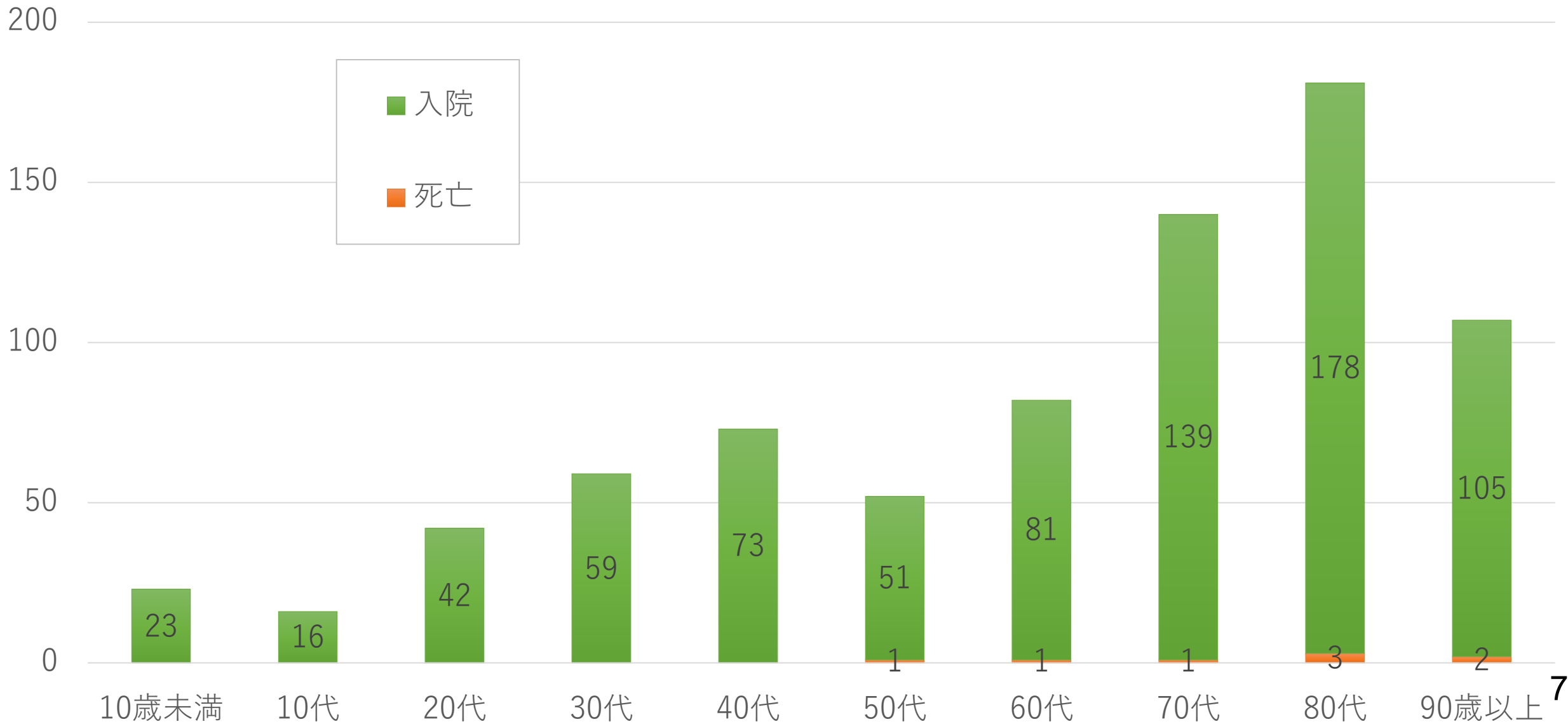


# 図6 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

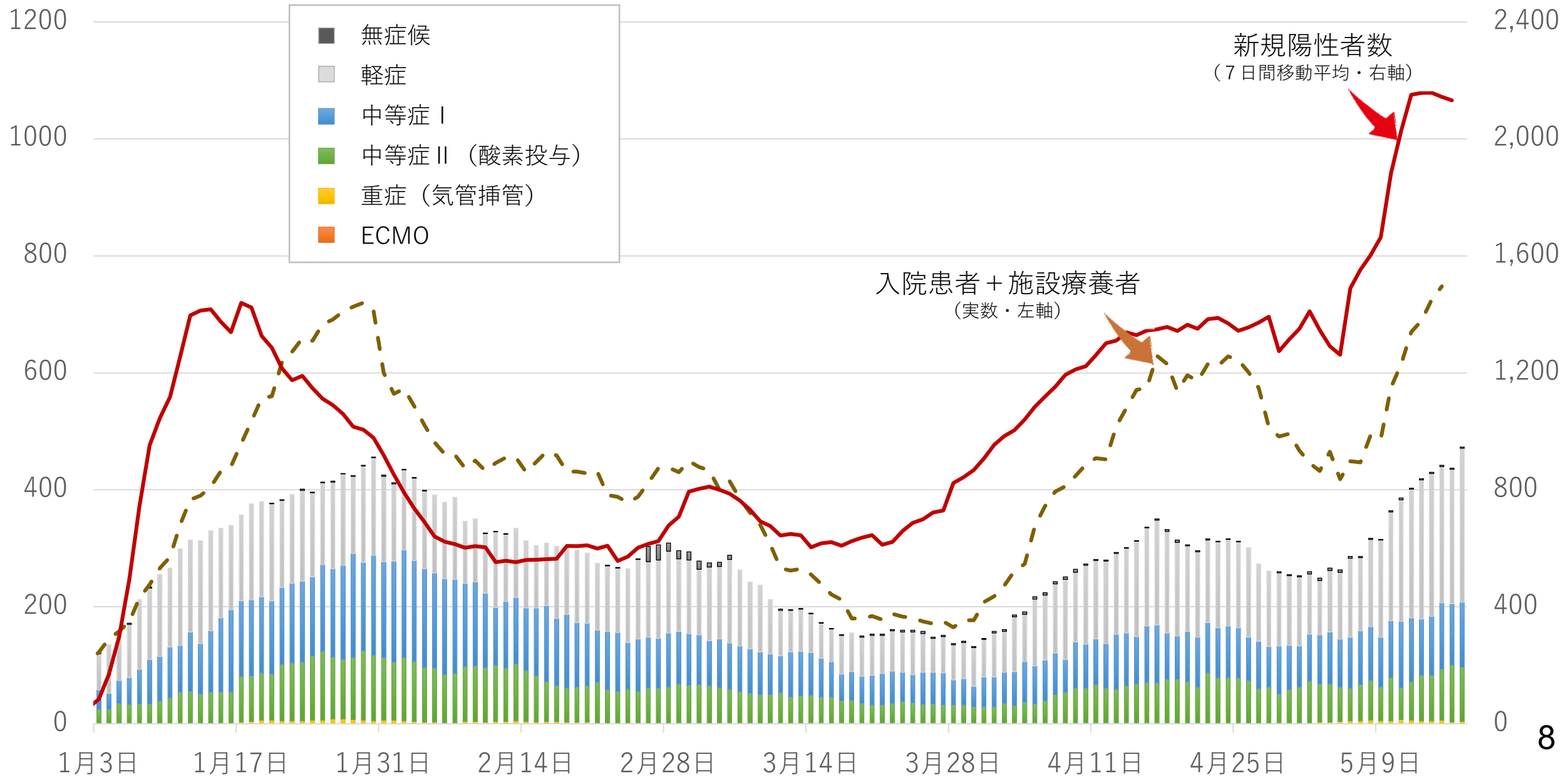


# 図7 入院患者と死亡者の年齢分布 (2022年4月1日～30日)

n = 775 (不明・確認中の2人を除く)

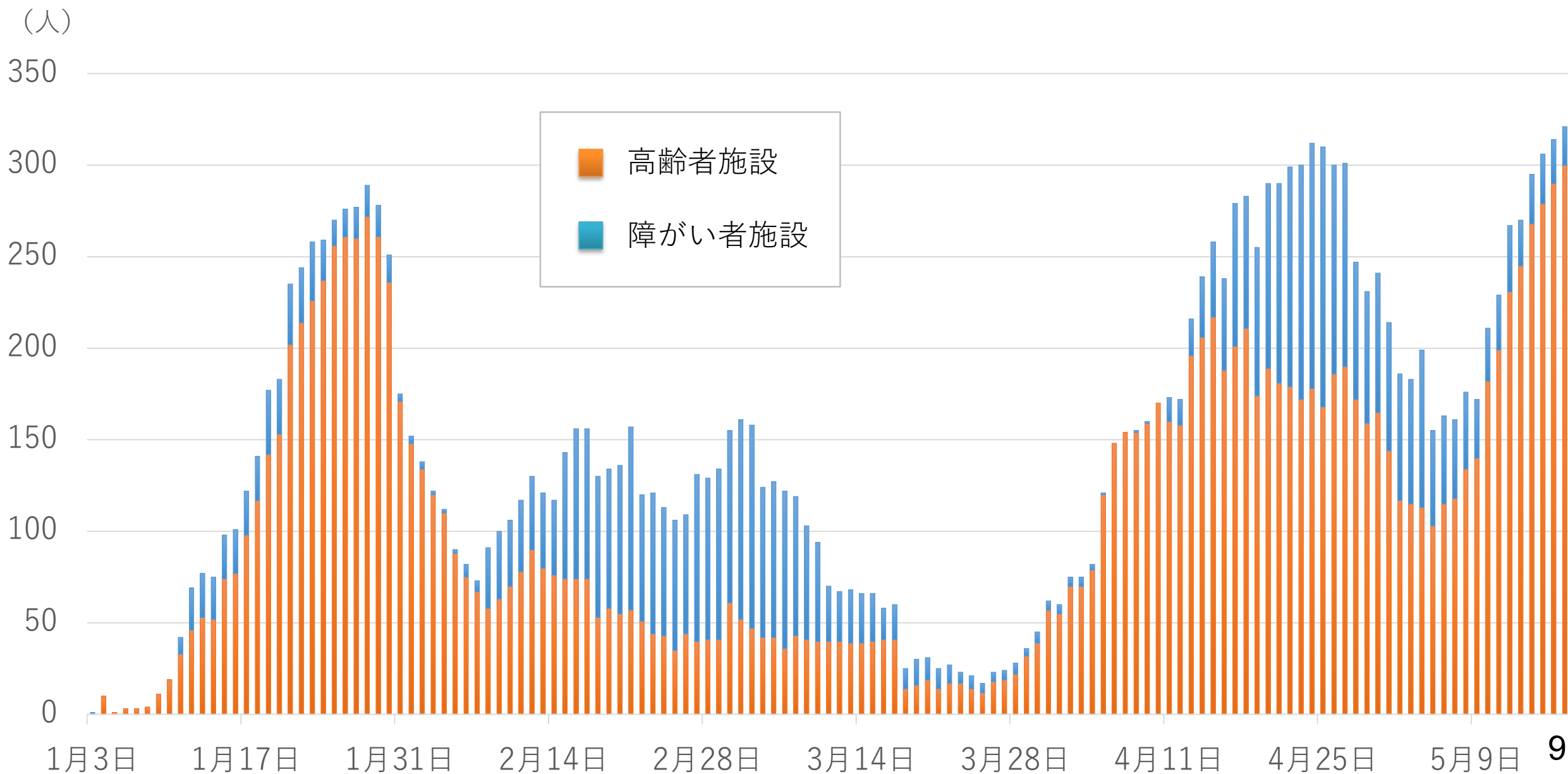


# 図8 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移



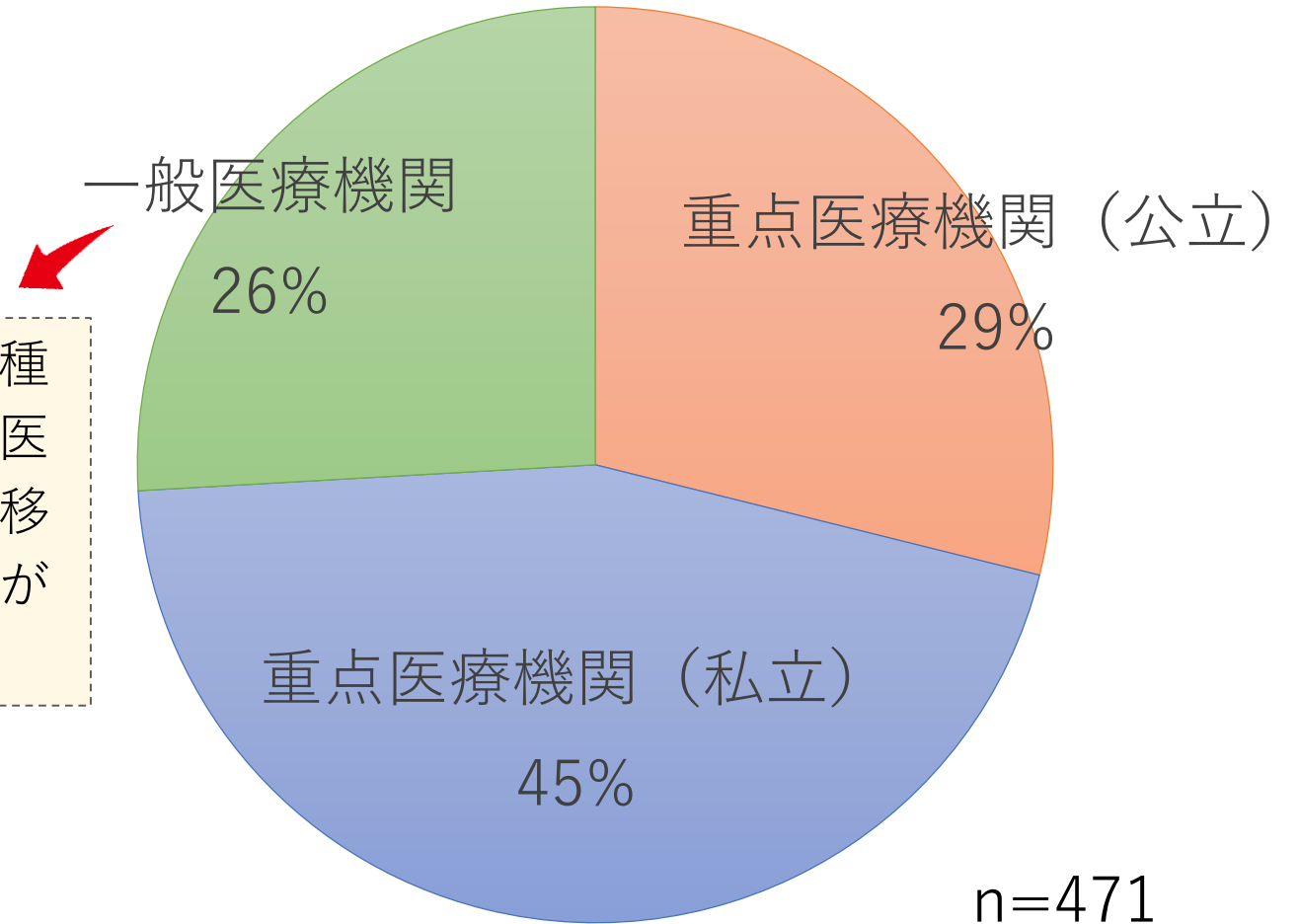


# 図9 社会福祉施設における施設内療養者数

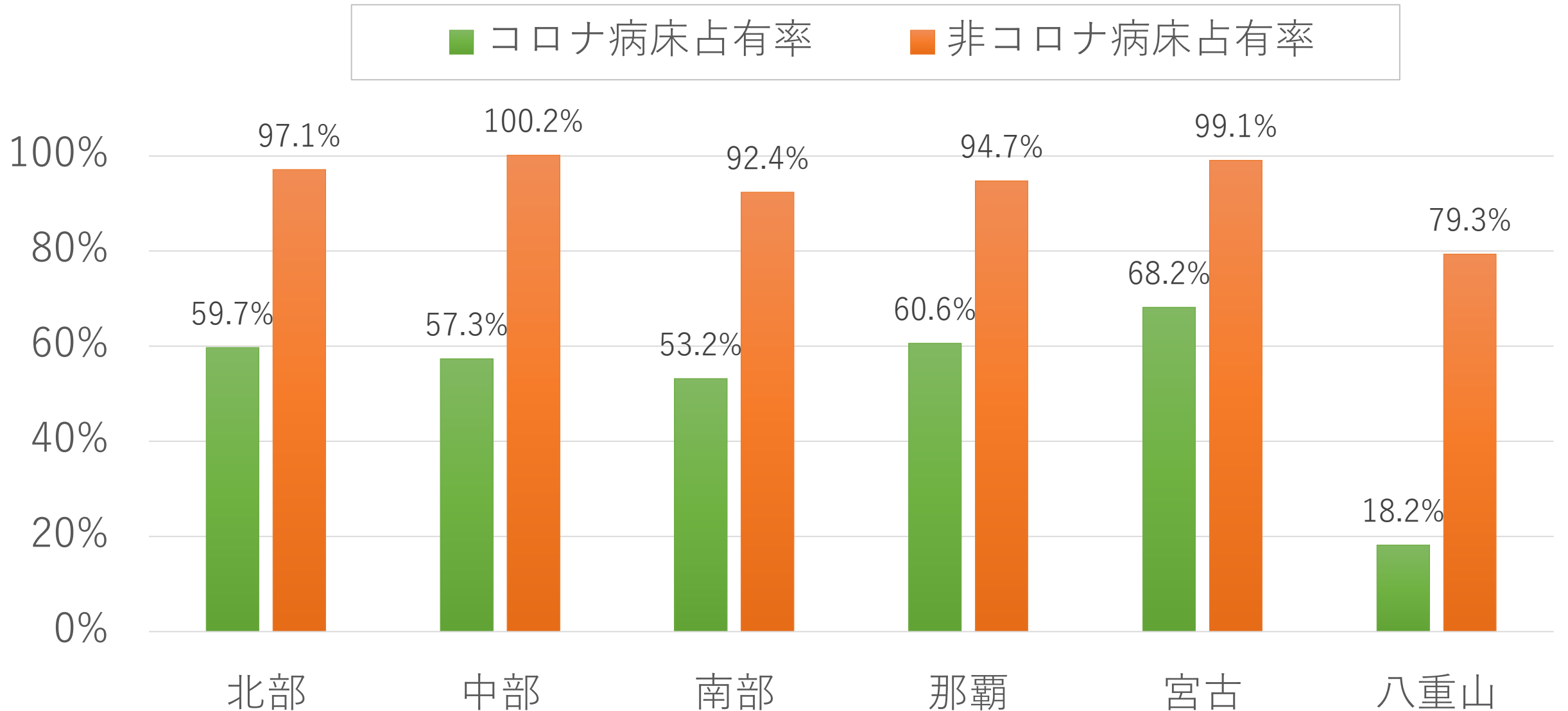


# 図10 新型コロナウイルス感染者の入院医療機関 (5月18日現在)

オミクロン株への置き換わりとワクチン接種の推進により、コロナ診療は高度な急性期医療から高齢者に対する総合診療／ケアへと移行している。このため、感染対策をとりながら一般医療機関の役割が高まっている。



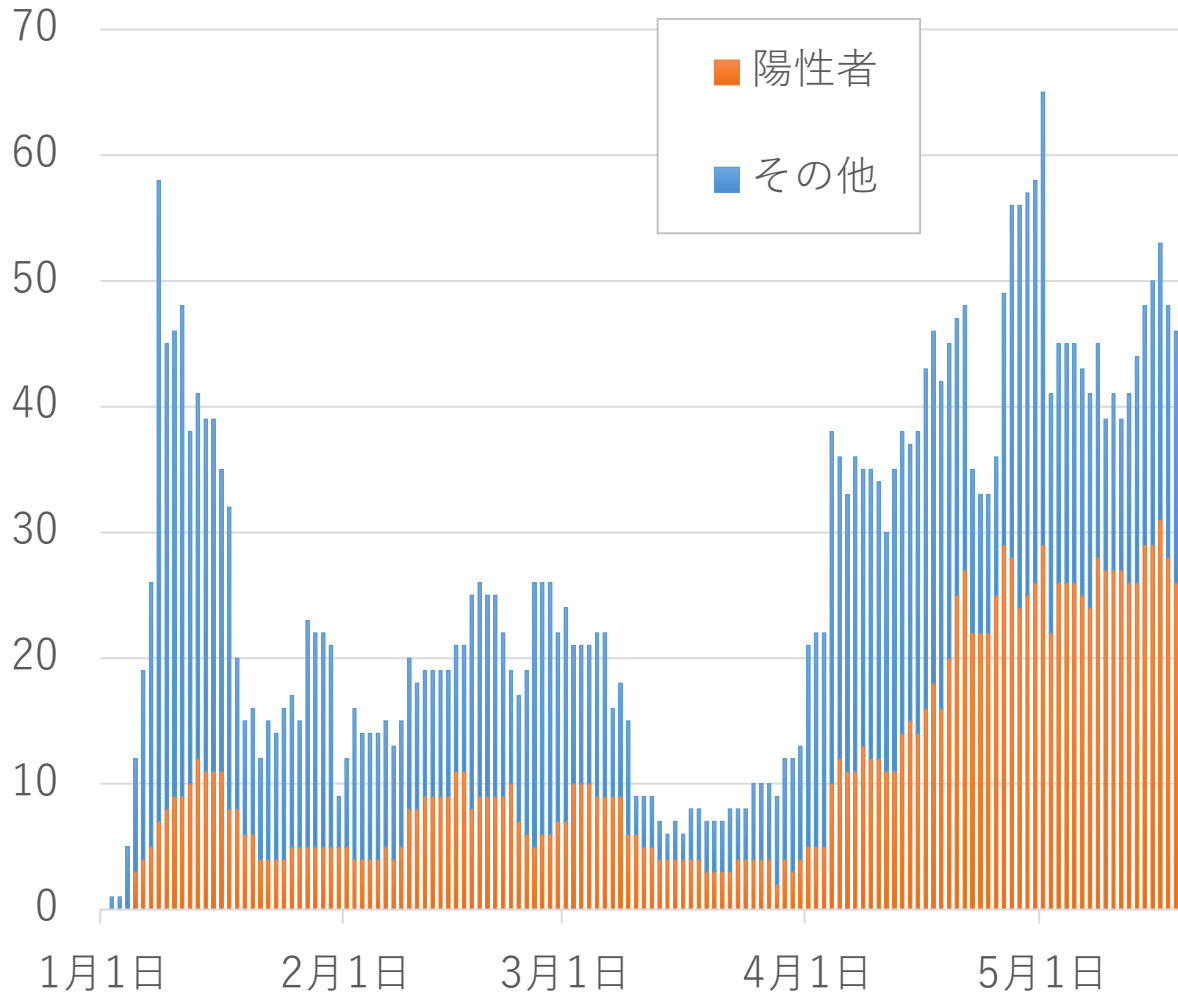
# 図11 重点医療機関における病床占有率（5月18日現在）



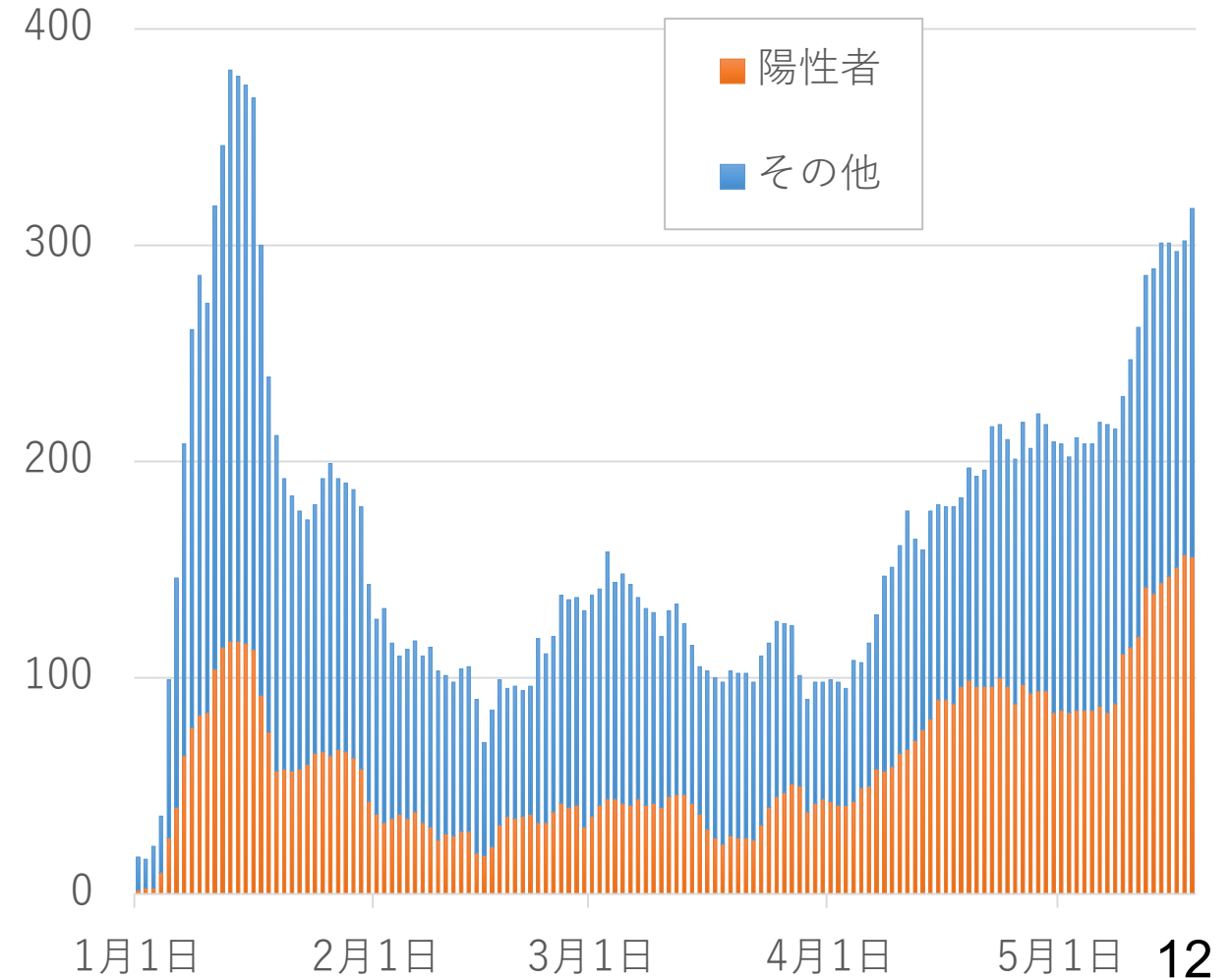
※ 救急受け入れをしている県内重点医療機関 16病院について集計

# 図12 重点医療機関における医師、看護師の休職数

## 医師



## 看護師



# 図13 沖縄県における前週比（7日間移動平均）の推移



## 検査体制

- 1) 軽症者は、できるだけ市販の医療用抗原定性検査キットを利用いただく。診療所でも抗原定性検査の活用を推進する。PCR検査は、感染者と接触のあった無症状者や高齢者施設等のスクリーニング検査において重点的に活用する。
- 2) 自己検査が陽性であったときは、希望があれば、陽性者登録センターでオンラインにより対面診療によらず届出できる。療養証明書の発行も受けられるようにする。
- 3) 学校・保育PCR検査事業は、幼稚園、保育園、および学童のみで継続する。その他の希望者は、接触者PCR検査センターを活用するか、発症時に抗原検査キットで判定する。
- 4) 入居施設において、感染者と同一空間を共有した者については、集中的にPCR検査を実施する。保健所による濃厚接触者の特定はしないが、当該入居者への施設内隔離は実施する。
- 5) 通所施設において、感染者と同一空間を共有した者については、集中的にPCR検査を実施する。保健所による濃厚接触者の特定はしないが、当該利用者は検査結果が出るまでは利用を休止いただく。

## 診療体制

- 1) 軽症者は、できるだけ市販薬を活用、救急受診は控えていただく。発症時に備えて、成人・小児ともあらかじめ解熱剤、鎮咳剤等を備蓄しておくことが望ましい。
- 2) 原則として、すべての診療所が発熱者の診療を行う。コロナ陽性であっても、軽症である限りは自施設で対応する（電話診療、追加の処方等）。
- 3) 重点医療機関以外においても、コロナ患者の入院診療が行える医療機関を拡張する。状態が悪化したときは、県の調整により重点医療機関へと移送される。
- 4) これまでコロナ診療に関わっていなかった医師にも積極的な対応を求める。一助として、軽症者に対する治療薬についての簡便なマニュアルを配布する。加えて、医師用の相談窓口も整備する。
- 5) 感染者のケアにあたる防護具の着用について、状況に応じて、持続可能かつ安全が保たれる方針へと再検討する（別添案）。

## 基本的な感染対策

- 室内換気を徹底する（十分な機械換気。または、窓やドアから風を入れる）。
- 医療者・介護者と発熱者の双方がサージカルマスクを着用する。
- 発熱者に触れる可能性があるときはグローブを着用する。または、直後に手指衛生を行う。

## 発熱者がマスクを着用していない場合（例：口腔内の診察、口腔ケア、食事介助、入浴支援）

基本的な感染対策に加えて、

- アイシールド、フェイスシールド等で眼を保護する。

## 発熱者との身体密着が想定される場合（例：移動・移乗介助、身体リハ）

## 体液・排泄物の飛沫を浴びる可能性がある場合（例：むせ込みのある食事介助、おむつ交換）

基本的な感染対策に加えて、

- リスクに応じて、袖なしエプロン、または袖付きガウンを選択して着用する。

## エアロゾル排出リスクが高い場合（例：咳嗽がある、喀痰吸引、口腔ケア）

基本的な感染対策に加えて、

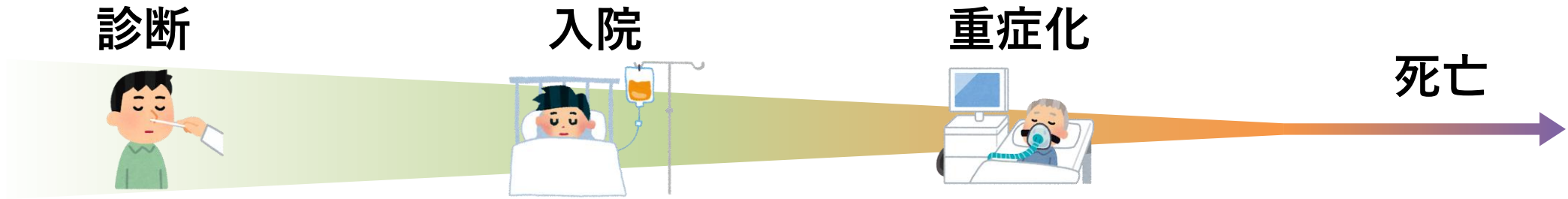
- N-95マスクを着用する（事前にフィットテストを行っておくことが望ましい）。

発熱者が触れた場所について、他の人が触れる可能性がある場合には、速やかにアルコール等で消毒する。  
発熱者と他の人が空間を共用する場合には、清潔区域と汚染区域を区分けするゾーニングを実施する。



# 図17 コロナと診断された人は、どれくらい重症化しますか？

沖縄県内において、2022年1月1日から4月30日までに診断確定した感染者 111,819人について集計した



20歳未満	140人に1人	2万人に1人	なし
20～49歳	120人に1人	6千人に1人	5万人に1人
50～69歳	23人に1人	1,400人に1人	3千人に1人
70歳以上	4人に1人	120人に1人	130人に1人

ワクチン未接種 43.3%  
 2回目接種完了 25.4%  
 3回目追加接種 16.8%

ワクチン未接種 2.1%  
 2回目接種完了 1.3%  
 3回目追加接種 0.1% 17